

地域医療連携室だより

No. 26
2019. 01

年頭挨拶

あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
平素より、皆さまからの多大なるご厚情・ご支援を賜りまして、職員一同御礼申し上げます。

昨年、日本は自然災害が多い一年でした。平成30年7月の西日本豪雨では、甚大な被害に遭われた先生も多く、改めてお見舞い申し上げます。当院では幸いにも大きな被害はなく日常診療が行えましたので、透析医会などの災害ネットワークを通じて、透析患者さんの受け入れをさせていただきました。今回を機に病院の対応について、人工臓器部 川西秀樹副院長を中心に再考することを始め、災害時にも対応できる病院体制を本年中に完成させたいと考えています。

これに加え、昨年秋より新しく二つの事業に取り組み始めました。
一つは、周術期における口腔機能管理です。歯科医師会の先生方に相談しながら、体制を整え、かかりつけの歯科医と連携を取っています。現在のところ、心臓血管外科の全身麻酔下手術予定患者さんにものみ実施していますが、今後少しずつ拡大していきたいと考えています。

もう一つは、『中區在宅医療相談支援窓口』事業です。
こちらは、中區医師会からの委託事業ではありますが、在宅療養をされている患者さんに関して、在宅医や地域包括支援センターからのご相談に応じています。

臨床面では「いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう」を理念として掲げ、腎臓、循環器を中心に急性期医療のトップレベルを保つことが出来るよう、今後も一層の努力をしていきたいと考えております。また、一昨年より開設した地域包括ケア病棟の活用を今一歩進め、環境の充実、リハビリの強化を図る目的で、病棟改装を計画しています。地域との連携、職員同士の連携を取りながら、本年はより成長した病院づくりを目指していく所存でございますので、今後ともご指導の程よろしく願いいたします。

2019年が皆さまにとって佳き年になりますよう心より祈念いたしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

院長 土谷浩子

謹賀新年

平成三十一年 元旦



安佐南区「ひやま」山頂より 初日の出



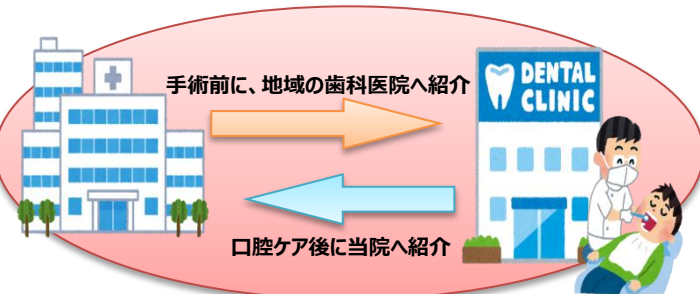
周術期における口腔機能管理について

平成30年の診療報酬改定においては、周術期口腔機能管理が大幅に変更され範囲が拡大しました。今回も、医科医療機関と歯科医療機関の連携の重要性を重視しています。

口腔内細菌による合併症（手術部位感染、病巣感染）、手術の外科的侵襲や薬剤投与等による免疫力低下により生じる病巣感染、人工呼吸管理時の気管内挿管による誤嚥性肺炎等の術後合併症を予防することは、非常に重要な取り組みだと考えています。

このたび、歯科を標榜していない当院でも、地域の歯科医療機関様との連携により『周術期口腔機能管理』をスタートしました。まずは、心臓血管外科の全身麻酔下手術を受けられる患者様へ歯科受診を勧めています。

手術が終了し退院されたら、歯科治療の継続を先生方へお願いいたします。今後ともよろしくお願ひいたします。



※歯科医院に通院されていない患者様には、『地域医療連携室』で、ご希望エリアの歯科医院をご紹介します。

『中区在宅医療相談支援窓口』開設

～安心できる在宅医療をサポートします～

中区医師会からの委託により、平成30年9月1日『中区在宅医療相談支援窓口』を開設しました。かかりつけ医の先生方や介護支援専門員といった、医療・介護サービス提供者からの相談に応じます。

例えば・・・

- ・在宅療養患者の緊急時等の入院受け入れ機関の調整、受診相談や診療科照会
- ・介護相談やレスパイト入院 など

相談内容によっては、当院で対応できない診療科もありますので、後方支援医療機関様としっかり連携を取りながら、患者様にとって適切な療養生活が支援できるようかかわってきたいと思ひます。

ご相談は、お電話ののち、「相談申込書」にご記入の上、FAXでお申込みください。

【開設時間】

月～金曜日（日・祝・年末年始・休診日を除く）

9:00～17:00

毎月第2・第4・第5土曜日

9:00～12:00 ***今年度の第5土曜日(2019/3/30)**

土曜日は相談のみで週明けに対応となる場合があります。

【問い合わせ先】

地域医療連携室 TEL：082-243-9220（専用ダイヤル）
FAX：082-243-9223

さあ、2019年がスタートしました。

「平成」はあと4カ月足らず。どんな元号になるのでしょうか。

M（明治）、T（大正）、S（昭和）、H（平成）以外のアルファベットには間違いはないのでしょうか。生きている間に3つの元号を経験するとは思ひもしてませんでした。

思いもしてませんでした。

次の時代も生き切るには健康一番。運動が大事。「いきいき百歳体操」ご存知の方は多いですよ。

平成14年に高知市が開発した、筋力向上のための体操だそうです。広島市ではカープの応援歌に合わせて行うカープバージョンがあります。「100歳体操しています」という患者さんが結構いらっしゃいます。

なかなか痩せられなかった70代のAさん、100歳体操を始めて約2カ月の外来日、体組成計InBody君で、筋肉量が増えていました。驚き！！二人で手は取り合わなかったけれど喜びました。

いろいろな体操があります。「ラジオ体操」数年前、始めて1ヶ月後に、あのぴよんぴよん跳ねる体操で膝を痛めました・・・情けない。

SAMさん考案の「ダレデモダンス」—だれでも簡単に踊れるのかと思ひ、DVD購入。しかし、細切れ時間に一度で覚えられような動きではなく中断。まだ私、自分にあつた体操に出会えていません。今から「広島県民体操」「いきいき100歳体操」YouTubeで研究してみよう。平成の間には自分にあつた体操にめぐり合いたいものです。

先日、時々誤嚥する80代のBさんに、「かみかみ百歳体操」を教えてくださいました。これは口や舌の体操です。舌の体操で最もポピュラーなのは「あいうべ体操」ですが、初めて知りました。舌も筋肉ですもんね。これは、いつでもできそう。始めました。ほうれい線にも効きそうだし・・・うふふ。

約30年前、明治生まれの祖母がペロをペロペロ動かしていたけど、意味があつたんだと納得。ばあちゃんすごい。

さて、私たち医療者も、患者さんも、自分にあつた健康法を見つけて 元気に新しい時代を迎えられるとよいですね。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

※「いきいき百歳体操」「かみかみ百歳体操」の詳細は広島市のHPを参照ください。

ちなみに「しゃきしゃき百歳体操」もあります。

室長の
つ・ぶ・や・き



慢性心不全看護認定看護師

Chronic Heart Failure Nursing

外来看護主任 戸部 和美
2017年 認定取得



必要とされる
知識と技術 (一部)

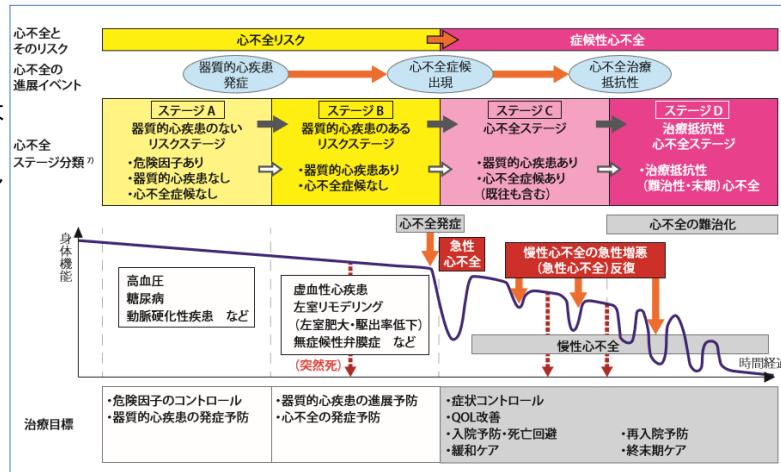
- ・安定期、増悪期、終末期の各病期に応じた生活調整及びセルフケア支援
- ・心不全増悪因子の評価およびモニタリング

《日本看護協会HPより》

心不全はあらゆる心疾患の終末像といわれており、寛解と増悪を繰り返しながら終末期を迎える臨床症候群です。日本全体における心不全患者の総数に関する正確な統計はありませんが、推計では2020年には120万人に達すると言われ、2025年には、高齢者の増加に伴い「心不全パンデミック(大流行)」が予想されています。

心不全パンデミックになると入院が必要な高齢心不全患者が増加し、病院が対応しきれなくなる事態が予測されます。また莫大な医療費がかかるなど社会的な問題が起こる可能性が考えられ、多職種チームによる疾病管理は心不全の発症や増悪の予防に重要な役割を果たすと考えます。

病態の的確なアセスメントを行い、患者1人1人の生活に合わせた疾病管理を行い、1日でも長く在宅で過ごす事ができるよう医療のみならず、地域の介護・福祉サービスの方々との連携をとることが必要となり、そのパイプ役は慢性心不全看護認定看護師の役割の一つであると考えています。



〈心不全とそのリスクの進展ステージ: 2017年改訂版ガイドライン〉

【看護面談】

心不全チームで介入している患者さんは外来受診時の面談をしています。在宅での生活状況を聞きながら自己管理が継続できているか確認を行い、必要であれば再指導を行っています。患者さんがその人らしく過ごすことができるよう訪問看護師やヘルパーなどの在宅スタッフと情報共有しながら患者さんやご家族をサポートしています。



【心臓リハビリテーション】

急性期・慢性期と時期に合わせた適切なプログラムによって、機能回復や維持を図る運動療法のほかに、退院に向けてパンフレットを用いて生活指導を行っています。



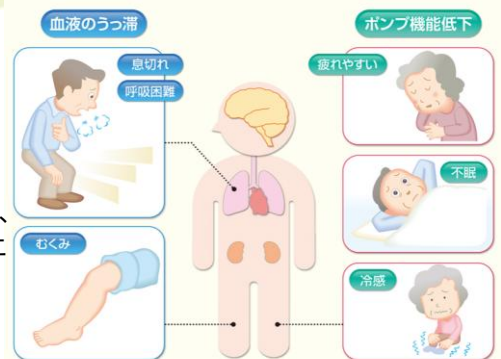
【心臓病教室】

毎月第一月曜日に心臓病教室を開催しています。患者さんや患者家族、地域の方々にも参加していただき、心不全についてだけではなく、心疾患全般、運動療法、栄養やお薬についての知識を得てもらえるような場づくりをしています。

高齢者の心不全症状に要注意!!

心不全の代表的な自覚症状は、**動悸や息切れ、呼吸困難、むくみ・体重の増加(3日間で2kg以上)**です。高齢者の心不全の半数は、収縮力が保たれているにもかかわらず、心臓へ血液が戻る力が弱くなっているため、うっ血が起こり、むくみ等の症状が起こりやすいといった特徴があります。また、高血圧や糖尿病・肥満のほか、心臓の病気などの基礎疾患を持っている人、とくに身体活動度の低い人に多いため、症状に気づきにくく、放置してしまうケースも少なくありません。

疲労感や脱力感、食欲不振、原因のわからない認知機能低下などの症状にも注意していただき、早めの連絡・受診をお願いします。



《疾患を持つ方とご家族、又は興味のある方ならどなたでも参加できます》

教室名/時間	月日	内容(担当)		お問い合わせ
慢性腎臓病の食事教室 14:30~15:30	1/16	水	「カリウム」の控え方	腎疾患関連 統括師長
	2/6		「たんぱく制限」について	
	3/6		「献立」の立て方	
慢性腎臓病教室 10:30~11:30	1/15	火	「血圧とCKD」	医師/管理栄養士/看護師
	2/19		「透析とCKD」	
	3/19		「糖尿病とCKD」	
心臓病教室 14:30~15:30	1/7	月	お薬について [薬剤師]	心臓血管 センター
	2/4		血管の病気について [医師]	
	3/4		自分の身体は自分で守る 実践!! 家庭での血圧と脈拍測定 [看護師]	
糖尿病教室 14:00~15:00	1/11	金	糖尿病の検査について [検査技師]	お薬窓口
	1/25		糖尿病の合併症 [医師]	
	2/8		インスリンってなあに? [薬剤師]	
	2/22		糖尿病の治療 [医師]	
肝臓病教室 14:30~15:30	1/28	月	肝臓病の運動療法 [理学療法士]	北外来
	2/25		肝臓病の薬/肝硬変 [薬剤師/医師]	
	3/25		肝臓病の検査/肝臓病—最近の話題— [検査技師/医師]	

入退院センターに薬剤師が常駐しています



2018年診療報酬改定で、入院前から支援を行った場合の評価として「入院時支援加算」が新設されました。看護師や薬剤師、栄養士らが、入院前の段階で患者アセスメントを行うなど情報を得て、入院中および退院に向けた支援を考えるという対応が求められてきています。

当院は2018年5月より薬剤師が予定入院患者の患者面談を行い、入院時持参薬や術前中止薬、休薬指示の有無などを確認しています。具体的には服用薬剤を確認し、その中に術前中止薬が含まれている場合は、医師が休薬指示を出しているか確認します。最近では後発品が普及してきており、医師が休薬指示を行っている薬剤名と患者さんが服用している薬剤の商品名と異なることがあるため、実際服用している商品名を確認するためにかかりつけ薬局へ問い合わせを行い、正確な情報を得るようにしています。また、休薬表を作成し説明を行うことにより、入退院支援の質を高める一助となっています。

入院前の面談は重要である為、豊富な経験を持つ4名の薬剤師が交代で担当しています。薬剤師が入院前に介入することで、手術中止の回避はもとより、副作用の未然回避なども期待できます。

今後の課題として、外来へ移行した患者さんの薬物治療を支援するために薬薬連携を強化し情報共有を行っていきたく考えています。

(薬剤部主任 井上智博)



《地域連携室》スタッフ

室長	消化器内科部長 荒滝 桂子	
転院相談	看護師	管理看護師長 伊美 礼子 土田 陽子 楠本 万理
紹介予約	事務	高橋 正江 山崎 貴子 宮本 早紀
医療相談	MSW	林 愛子 桂木 真由美 福岡 紗季 宇野 淳子 岸良 明子
入退院センター	看護師	内部 麻紀 亀井 久美子 松本 慶子 宮本 江里子 村尾 麻衣 山田 舞衣

医療法人あかね会 土谷総合病院 〒730-8655 広島市中区中島町3-30

*地域医療連携室(紹介予約専用)*TEL:082-243-9222 FAX:082-243-9223